

三愛学舎

研究テーマ

- ・様々な障がい特性や多様な教育的ニーズに応えるために、生徒一人一人を共通に理解し、現在および卒業後の生活につながる適切な教育・支援ができるよう、職員の専門性の向上をめざす。
- ・情報モラル教育のあり方を検証し、充実をめざす。

1 全体研究

(1) 研究の目的

2017年度より「情報モラル教育」を教育課程に位置づけ、本科ではおもに総合探求の時間で、専攻科ではおもに総合探求の2学年合同のグループ学習の時間で授業を行いながら、あわせて個別の事例に随時対応をしてきた。

しかし、学校全体での授業や対応についての共有化は充分とは言えず、卒業生のトラブル事例も散見されるようになった。そのため、研究授業等を通して情報モラル教育の実践内容について相互理解を図り、大切にすべきポイントを検討・確認することを目的に研究を行う。

(2) 研究内容および方法

①秋季職員研修(10月)

前期に本科2年生の総合探求時と専攻科の合同グループ学習時に情報モラル教育の研究授業を行い、その授業について全体で共有し、性に關心のある生徒への取組、保護者との連携等について協議した。

夏季休業中に行った奥中山学園との合同研修で検討した事例の3名について、3グループに分かれ、その後の実践状況を確認し、今後の方向性や取組を協議した。

②冬季職員研修(12月)

後期に本科1年生と本科3年生の総合探求時に情報モラル教育の研究授業を行い、その授業について全体で共有し、生徒が自分のこととしてとらえるための手立て等について協議した。

3グループに分かれて、情報モラル教育で各自が大切だと考えることについて意見交換を行った。

2 講演会(高教研講演会)

演題:「ネット社会で自律できるための取組や支援のあり方について～卒業後の生活を見据えて～」

講師:岩手県総合教育センター

研修指導主事 牛崎 芳恵 氏

期日:2021年9月30日(木)

参加者:30名(本校職員)

3 研修会

(1) 奥中山学園との合同研修(7月)

障害児入所施設奥中山学園の職員と合同で実施した。

テーマ:在校生、卒業生から見えるスマートフォン、SNS利用の課題

内容:卒業生のSNS等に関するトラブルの現状について確認した。

4グループに分かれて、1つの事例(在校生又は卒業生)をグループスーパーバイズの手法を用いて検討した。

(2) 新職員研修(12月)

新職員が担当する生徒1名について、生徒の状況理解や関わり方等を全教員で検討、助言を行った。

(3) 虐待防止研修(12月)

学校における虐待リスクに関して、職員間で共通認識を図り、現状理解を深めることを目的に行った。事前に虐待防止自己チェックとリスクアセスメント調査を各自で行い、その結果に基づいて小グループで学校生活に潜む虐待リスクについて協議した。

4 外部研修

昨年度はコロナ禍で研修会自体が少なく、外部研修にほぼ参加することができなかった。しかし、今年度はオンライン研修が増えたことで研修参加が容易になり、大幅に参加人数・件数が増えた。

参加職員は研修報告書を作成し、職員間で回覧した。